

問題発見飯箸ゼミとは

2015年度飯箸ゼミの成果発表に寄せて

2016.02.01 講師 飯箸泰宏

1. Who am I ?

- ▶ 氏名 飯箸泰宏
 - ▶ 年齢 68歳
 - ▶ 明治大学情報コミュニケーション学部兼任講師

 - ▶ 元 科学ジャーナリスト
 - ▶ 株式会社サイエンスハウス代表取締役 35年
 - ▶ 教員歴35年
- <教育経験> 駿台電算機専門学校/日本電子技術専門学校など
中小企業大学校（通産省・経産省傘下）
大正大学/明治大学/法政大学/武蔵野美術大学/慶応大学/国土舘大学
(システム工学、情報システム論、情報コミュニケーション論、情報デザイン論、情報社会論)
- ▶ 学歴 都立足立高校（ビートたけしと同級生）
東京大学理学部化学科卒
東京大学理学部情報科学科研究生修了

2. 情報コミュニケーション学部のゼミ構成

- ▶ 1年生...基礎ゼミ（○座学 ×演習、「情コミとは何か」）
- ▶ 2年生...問題発見ゼミ（先生次第・座学多い、「問題発見」）
- ▶ 3-4年生...問題解決ゼミ（先生次第・演習中心、「問題分析と問題解決」）

11年前学部発足のころ

孤立する学生が増えていて、退学率が増加傾向



教師と学生の間を密接なものにする→孤立化を防ぎ、退学率を減らす

※問題発見ゼミの弊害 1学年限りなので、先輩から後輩への引継ぎが行われない

3. 問題発見飯箸ゼミ。活動の狙い

隠された教師の意図=「独創力・創造性の開発」

問題を発見できない人をなくす。

「問題」 = 「目的と目的に届かない現状との差異」

「活動方針」 = 「班単位で目的を定めて、目的実現のために試行錯誤する。」

目的に向かって突進すると、**予期せぬ困難**が次々に立ち現れる。

困難を乗り越えて解決を図ろうとする。解決策が見えれば「問題発見」となる。

☆ **解決策が見えないうちは問題が正しく発見されたとは言えない**

目的なくして
問題遭遇なし

困難との遭遇
何が問題？

問題の発見

「問題発見」と
「問題解決」

4. 本年度突進したテーマ

▶ 未来にはばたく明大生らしいことをする（山崎、高橋、瀬尾）

<「酔っ払いサラリーマンなど」班>

- ・ 高校訪問(明大の情コミ学部のアピールを行う) →×
- ・ 居酒屋インタビューで社会人の意見を聞く →△
- ・ 駅頭等のアンケートで社会人の意見を集める →?
- ・ ご意見のように自分たちがやってみた →?

▶ 火山噴火で萎む箱根を元気にする（佐野、飯利、羽太、金井）

<「箱根を元気にする」班>

- ・ 新宿等著名駅で物販イベントを狙う →×
- ・ 明大前駅前広場で物販を狙う →×
- ・ 箱根視察の実施 →○
- ・ エヴァイベント企画案の提示 →△
- ・ 民学コラボでの企画案の再構築 →?
- ・ 学生独自の最終企画案「ヤング箱根情報局」 →?

5. 民学コラボレーション

- ▶ 民間の力と学生の力がコラボする。

「学生のアイデアや問題意識を民間に提供」



「民間の経験と知識と場合によっては資金を提供」

- ▶ 本年度で10年の歴史がある。

6. 民学コラボの歴史

★2005年度

「問題発見」の問題が発覚

★2006年度

民学コラボレーションで「問題発見」の問題を解決へ(民学コラボレーション1、お祭りサイト)

★2007年度

アンケートサイトに関心のある学生が登場し、意見が割れた。
どんなテーマでも扱える会社をつくることにした。
しかし、興味だけに任せれば業務肥大にいたる。
これを防ぐために、テーマの選択と存廃の判断基準は「利益」とした。
(民学コラボレーション2、気式会社起こせムーブメント)

★2008年度

経営実行のツールであるサイトの作成を進めた。
経営実行にまでは手が届かなかった。
(民学コラボレーション3、サイト構築)

★2009年度(前期・後期)

(前期:民学コラボレーション4-1、サイト点検)
(後期:民学コラボレーション4-2、つながりサイトと学園祭アンケート、かがり火との連携)
経営に関心を持つ学生が激減した。「祭り」に対する嫌悪感が集中した。
(民学コラボレーション4、つながりサイト構築)

★2010年度

経営に関心を持つ学生がさらに減少した。「祭り」に対する嫌悪感は解消され、日本の祭りに回帰した。
アンケート班の悪戦苦闘はみものだった。
(民学コラボレーション3、サイト構築)

★2011年度

経営に関心を持つ学生が一層減少した。「祭り」は対象外になり、情報コミュニケーション生としての自己アピールに関心が向かった。ゼミアンケート/OB・OGインタビュー。JonJonサイトの構築。
(民学コラボレーション3、サイト構築)

★2012年度

明大の学生に役立つ情報サイトを作ろう。先輩たちは明大内の情報を発信しようとして、壁を越えられなかった。自分たちは、学外の情報だけを扱おう。と考えた。
(民学コラボレーション3、サイト構築)

★2013年度

大学講師が直面する課題
フラッシュモブビジネスへの挑戦

★2014年度

・ボランティア →×
・フリーペーパー →×
→ → → → → → → → → → 農業
○農コン(農場コンパ)
○サブAカル販売支援

★2014年度

サブAカルチャ支援
農コンイベント

★2015年度

未来にはばたく明大生らしいことをする
・高校訪問、明大の情コミ学部のアピールを行う→×
・居酒屋インタビューで社会人の意見を聞く→△
・駅頭アンケートで社会人の意見を集める→?
箱根を元気にする
・火山の噴火で打撃を受けた箱根町に接触。
・物販イベントを狙う→×、× (2連敗)
・箱根視察の実施→○
・エヴァイベント企画案の提示→×
・最終企画案

7. 本年度お世話になった人々

▶ 箱根関係

ご協力いただいた箱根の観光客の皆さん、箱根町の松島基樹係長・増田泰久主事、箱根湯本観光協会の譲原清彦事務局長、明大前商店街振興会会長本杉香様、レストラン Babil オーナー仁藤実様、かっぱ天国のオーナー村上東司様、彩考電算システム中本浩之社長ほか

▶ 酔っ払い関係

インタビューにご協力くださった佐原伸氏・米島博司氏・小金澤陽平氏・伊藤晋作氏ほか、駅頭アンケートに答えてくださったたくさんの皆さん、バンコクのホテルでアンケートに答えてくださった方々、無理矢理アンケートに答えていただいた班員の友人知人の皆さんほか

**本当にありがとうございます。
おかげ様で、学生たちの雄姿がみられます。**

学生たちの発表に続く。
(ご期待ください)